

『鳴川運輸区!?!構想を許すな!』

鳴川に運輸区?

千葉支社において、「安房鴨川運輸区」新設なる構想が検討されている。安房鴨川に運輸区を設置し、動労千葉の拠点である勝浦運輸区や館山運輸区を廃止・縮小しようというのだ。列車の運行効率等、様々な条件を考へても、安房鴨川に運輸区を新設するなどということには、何ひとつ経営的合理性はない。要するに動労千葉に対する組織破壊を唯一の根拠として、このような「構想」が進められているのである。断じて許すことはできない。われわれは、この攻撃を、組織の総力をあげて粉碎する決意である!

一切が箝口令!

「鳴川運輸区構想」は、昨秋以来、様々なかたちでウワサにのぼり始めた。当局は、「千葉支社の運輸基地のあり方について様々検討はしている」としながら、しかし、具体的な話しになると、全く口を噤んでしまふ状況が続いている。一切箝口令が敷かれているのである。事態は、現実に工事が始まっているながら「ノーコメント」と言い続けた習志野運輸区設置のときと全く同じだ。このような対応を行なうこと自体のなかに、「鳴川運輸区」構想なるものが、極めてやましい目的をもつもの

であることが示されている。

しかー! 現実に進む事態は……

しかも、一切箝口令を敷く一方、事実としては、安房鴨川の車掌支区では、昨年末以来、測量が繰り返されている。「一体何を目的にした測量なのか」という組合側からの問い合わせにも、千葉支社は、一切口を噤み回答しようとしていない。

さらに、京葉運輸区では、現場当局とJR総連の革マル分子が、外房方面のJR総連所属の運転士をひとりひとり呼んでは、「安房鴨川に転勤する気はないか」と打診している。現在存在もしない職場に、「転勤する気はないか」とは一体どういうことか! 意図は明らかだ。あわよくば、動労千葉の拠点である勝浦支部を潰し、JR総連・革マルと結託してJR総連を主体とした運輸職場を鴨川にデッチあげようというのだ。まさに、「鳴川運輸区」構想は、不当労働行為そのものである。

地方の切り捨ては更に加速する

千葉支社は、この間、ローカル列車の運転を次々に削減してきた。この二年ほどのわずかの期間に切り捨てられた列車の本

数は、県内で七〇本にも及ぶ。また、駅の無人化も次々と進められ、今では千葉以東の実に七〇%の駅が無人駅にされてしまった。このような地域切り捨ての経営施策の上に、今度は、勝浦運輸区を廃止しようというのだ。これが、ローカル線の切り捨てにさらに拍車をかけることは間違いない。場合によっては、千葉からの列車は全て勝浦や館山で打ち切られてしまう可能性すらある。

何ひとつ合理性はない!

しかも、そればかりではない。この間のローカル線切り捨て攻撃のなかで、勝浦以遠・館山以遠の列車が大幅に削減され、一

日に何本も列車が走らないような状態にされたなかで、安房鴨川に新たな運輸基地を造ったとしても、冒頭述べたとおり、列車運行の効率は極めて悪くなる。運輸区の要員数を減らすこともできないはずだ。つまり、経営上の合理性は何ひとつないのだ。結局これは、組合潰しの労務政策の観点のみから考えだされたことなのだ。

もはやJRには、鉄道のもつ「公共性」という使命など関係ないのだ。動労千葉潰しのためには、なり振り構わず、列車の運行がどうなるかと構わないというのである。

絶対に許せない! 直ちに反撃の態勢をつくりあげよう! 組織の総力をあげて粉碎するぞ!

当面するスケジュール

五月一九日(金)	支部代表者会議	動力車会館	一四時
同日	支部代終了後	水野・中江市議激励会	一七時
五月二二日(日)	狭山中央総決起集会	東京・芝公園	一三時
五月二三日(火)	清算事業団控訴審判決公判		
	東京高等裁判所・八二四号法廷		一三時
五月二八日(日)	三里塚東京集会	目黒区公会堂	一七時